

## 令和2年度第2回大府市ふれ愛サポートセンター運営委員会議事録（要点記録）

開催日時 令和3年3月15日（月） 13:25～14:40

開催場所 ふれ愛サポートセンター 多目的ルーム1～3

出席者 ※敬称略

有料老人ホームさわやかなの丘 施設長	中 隆之
大府福祉会あけび苑 管理者	平林 政明
北山民生児童委員協議会 会長	富田 重金
大府リフレッシュクラブ	下村 洋子
校長会代表	籠島 篤司
公募委員	田中 陽子

事務局	福祉子ども部 部長	鈴置 繁雄
	子育て支援課児童係 係長	小清水 崇
	学校教育課学校教育係 係長	深谷 雄紀
	レインボーハウス	蟹江 修
	大府市高齢者相談支援センター	大浦 純子
	大府市障がい者相談支援センター	竹内 美喜
	ふれ愛サポートセンター 館長	多田 桐子

傍聴人 なし

### 1 あいさつ

委員長あいさつ

### 2 議題

#### (1) 利用登録団体の申請、審査結果について

—令和元年度第2回以降新規申請なし—  
—質疑なし—

#### (2) 令和2年度の利用実績（令和3年1月末現在）について

—資料No.1に基づき事務局より説明—  
—質疑なし—

#### (3) 令和2年度ふれ愛サポートセンターの相談実績について

—資料No.2に基づき事務局より説明—

## ○障がい者相談支援センターについて

—資料No.3に基づき事務局より説明—

—質疑応答—

委員：障がい者相談支援センター職員が、3年度新体制になり増員になるようだが、事務所の職員の配席、体制、その他の影響はどうか。

事務局：事務所のレイアウトを変更して、基幹相談・市委託相談部門も、指定相談（児・者）部門も現在の事務室内に設置します。相談来所者やふれ愛ゾーン利用者に影響はありません。強いてあげれば、センター職員全員参加の会議は11人以上になるため、新型コロナ感染禍定員制限があり、会議室（通常18人定員、新型コロナ感染禍の現在10人程度）での会議が困難です。11人以上が参加する会議や行事をスピカ内で開催するには多目的ルームしかないため、利用団体と調整するか、場合によっては、他の会場確保等の調整が必要になります。

委員：事務所の新型コロナ感染症防止対策についてはどうか。

事務局：普段から行っている消毒や換気を基本に、今後もより一層の感染防止対策を図っていきます。

委員：虐待防止センターにおいて新型コロナ感染禍の相談等の影響はどうか。

事務局：虐待防止センターの相談では、養護者（在宅）の虐待に関しては、「家業の収入が減少したストレスにより、叩いてしまった事例」「収入減により医療・介護サービスの利用に消極的になった事例」「外出自粛でストレス発散の機会がなく、家族が顔を合わせる時間が増加した結果、虐待につながった事例」がありました。新型コロナ感染症緊急事態宣言下の時期に、連絡・通報が若干落ち着いていたが、解除された現在、また連絡・通報が増えてきています。

防止センターへの連絡・通報は、当事者はもちろんですが、介護保険や障害福祉サービス等で家庭や施設に携わっている関係機関の皆様のみまもりの中から異変に気づいての連絡・通報が多いので、今後も連携を大切にしていきたいと思います。

委員長（まとめ）

：新型コロナ感染禍での虐待防止センターの相談の状況や障がい者相談支援センターの新体制等の説明がありました。

令和3年度はふれ愛サポートセンターも変化があり、市役所内には福祉総合相談室もできるとのことで、大府市民の皆様が少しでも安心してただけるような相談体制になっていくこと願う。

本日の運営委員会のご意見等を今後の市民の相談、ふれ愛サポートセンターの運営に生かして行ってください。

### 3 その他

委員：新型コロナワクチンの対応はどうなっているのか。スピカの職員や福祉サービス機関の職員への配慮はあるのか。

事務局：国から示されているのは、医療従事者と高齢者が優先となっています。福祉こども部では、生活支援として、新型コロナのPCR検査陽性者や濃厚接触者の自宅に、食料品・日用品等の買物支援を行うサービスを実施しています。当初はこの業務に携わる職員は優先接種の対象者でしたが、見込んでいたワクチンの供給量が少ないということで、今は未定になっています。

委員：・ストレスの中でいじめ等が増えないといいなと思う。  
・介護保険施設等でも面会制限がある。施設の方を信頼するしかない。しかし、虐待防止のためには、受け身で待っているだけでなく、抜き打ちで調査に行く等何か今までと違った対策をしていけないか。職員が対応できないならば、ボランティア団体で行う等はどうだろうか。  
・また、障がい者の理解を拡げてほしい。障がい者理解のための講座等も積極的に取り組んでほしい。  
・スピカの利用者は高齢者が多い。大府の良いところではあるが、もっとスピカの中で若い世代が福祉に参加できるような取組をしてほしい。2025年に向けて今までのやり方ではいけない。若い世代を福祉に巻き込む施策をしてほしい。

委員：大府市社会福祉協議会が教育委員会（小中学校）と連携して、福祉実践教室（障がい者の理解を促す講座）を毎年実施している。今年度も感染防止対策をしっかり行い、開催したと聞いている。

委員：認知症サポーター養成講座のように受講するとオレンジリングを配られるように、障がい者の理解をした人も〇〇リングのようなものがあると良い。障がい者理解の啓発もイベント的に盛り上げていけるといいと思う。

委員：・大府福祉会が知的障がい者の理解を促進するために、2月市民向けに講座を開催した。30名ほどの地域の方に参加していただけた。こういった活動も続けていけると良い。  
・スピカの利用者団体が固定化されつつある。イレギュラーの団体が使いにくいとの声もある。申込み前にあきらめている団体があるのではないか。たまに使いたいなと思う時がある。より多くの方に利用してもらえるように取り組んでほしい。

委員：・スピカ利用団体どうしの交流等があるとよい。世代間交流になると思う。つながりづくりをスピカがやってもいいではないかと思う。  
・高齢者施設は感染予防として、入場者の制限をしている所が多い。高齢者施設の面会の方法としては、色々試行した結果、WEB面会よりも、感染防止対策をして、面会室で飛沫防止の仕切りをつけての面談の方が家族と

交流しやすいと思った。

・ボランティア団体とは友好的に虐待につながらない対応をしていきたい。

委員：施設や病院等での面会について、1か月に1回の面会では足りない。もっと簡単にWEB等の機器を使えば今の時代はできるのではないか。

委員：顔をみるだけならば、WEBでできるが、声がうまく聞こえない等で会話ができず、交流にならないことが多い。自立の方は好きな時間に、携帯やスマホで家族と交流している。要介護の入居者は家族との面会に、個別で対応しなければならず、1日の面会件数を制限せざるを得ない。

委員：・WEB等で顔をみるだけならば技術的にはできる。顔がみえても、コミュニケーションが取れぬ、面会にならないことが障がい者にもある。  
・大府市のワンストップ窓口（横断的な窓口）はスピカだったと思うが、福祉総合相談室との兼ね合い。市民へのPRや使い分けはどうか。関係する方たちに伝えていくので教えてほしい。

事務局：・市役所の福祉総合相談室の機能はワンストップ窓口とは異なります。相談窓口が1つ増え、どこに相談していいかわからない方をいったん受け止める場所になります。相談窓口がわかる方、知っている方は今までどおりの窓口へ相談していただく。「どこにつないでも、なかなか支援につながらない。」「制度のはざままで既存の部署では対応できない」「複数の部署において連携した支援を行うが調整役が必要」「対応する支援部署がない。」等に対応し、なかなか解決しない課題にはじっくりと伴走型支援をしていく部署としてとらえていただけたらと思います。

—部長お礼のあいさつ—

—以上—